

設置年度 平成 30年度
計画の区分： 学部の学科の設置
注1

届出

東京医療保健大学 和歌山看護学部 看護学科
注2

【届出】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人青葉学園
令和3年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	和歌山事務部
職名・氏名	事務部長 守道 賢次 部長補佐 荒木 祐介
電話番号	073-435-5819
（夜間）	073-435-5819
e-mail	wakayama-iimu@thcu.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

和歌山看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	17
4. 既設大学等の状況	18
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	34

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人青葉学園

(2) 大学名

東京医療保健大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒640-8538

和歌山県和歌山市東坂ノ上丁3番地

〒640-8269

和歌山県和歌山市小松原通四丁目20番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タムラ テツオ) 田村 哲夫 (平成14年4月)		
学長	(キムラ サトシ) 木村 哲 (平成25年4月)	(カメヤマ シュウジ) 亀山 周二 (令和3年4月)	任期満了のため変更、 令和3年4月1日(3)
学部長	(ヤシマ タエコ) 八島 妙子 (平成30年4月)		
学科長等	(ヤシマ タエコ) 八島 妙子 (平成30年4月)		

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員		
和歌山看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	年 4	人 90	年次 人 0	人 360	新規入学者を 募集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	90人 (-) [-]	-	1.16	-							
志願者数	541 (-) [-]	-	492 (-) [-]	-	349 (-) [-]	-	417 (-) [-]	-			
受験者数	503 (-) [-]	-	475 (-) [-]	-	328 (-) [-]	-	390 (-) [-]	-			
合格者数	143 (-) [-]	-	157 (-) [-]	-	185 (-) [-]	-	179 (-) [-]	-			
B 入学者数	104 (-) [-]	-	100 (-) [-]	-	104 (-) [-]	-	110 (-) [-]	-			
入学定員超過率 B/A	1.15		1.11		1.15		1.22				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、()書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和3年度	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	104 [-] (-)	- [-] (-)	100 [-] (-)	- [-] (-)	104 [-] (-)	- [-] (-)	110 [-] (-)	- [-] (-)		
2年次	/		103 [-] (2)	- [-] (-)	96 [-] (-)	- [-] (-)	104 [-] (-)	- [-] (-)		
3年次			/		/		103 [-] (3)	- [-] (-)	96 [-] (1)	- [-] (-)
4年次							/		/	
計			104 [-] (-)	203 [-] (2)	303 [-] (3)	412 [-] (3)				

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、**留学生の状況について内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況について、内数で記入**してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ **編入学生や転入学生も含めて記入**してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入**してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	104 人	2 人	平成30年度	2 人	人	学生個人の心身に関する事情(2人)
令和元年度	203 人	4 人	平成30年度	0 人	人	学生個人の心身に関する事情(4人)
			令和元年度	4 人	人	
令和2年度	303 人	0 人	平成30年度	0 人	人	
			令和元年度	0 人	人	
			令和2年度	0 人	人	
令和3年度	412 人	0 人	平成30年度	0 人	人	
			令和元年度	0 人	人	
			令和2年度	0 人	人	
			令和3年度	0 人	人	
合 計		6 人		6 人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{104} = \boxed{1.92} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{203} = \boxed{1.97} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{303} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{412} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<和歌山看護学部 看護学科>

(1) - ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
豊かな人間性を育む分野	スタディ・スキル	1前	1			2		3	1			
	いのち・人間	心理学	1前	2								兼1
		哲学と宗教	1前	2								兼1
		芸術	2後	1								兼1
		教育心理学	2前	2								兼1
		生命倫理学	1後	1								兼1
	社会参加	コミュニケーション概論	1後	2								兼1
		経済学	2後	2								兼1
		社会学	1前	2								兼1
		日本国憲法	1前	2								兼1
		国際関係論	2後	1								兼1
		ジェンダー論	2後	1								兼1
		文化人類学	2後	1								兼1
		ボランティア論	1前	1								兼1
	ボランティア活動	1後	1								兼1	
	自然科学	生物学	1前	1								兼1
		化学	1前	1								兼1
		データサイエンス	1後	2								兼1
		物理学	1前	1								兼1
		スポーツ科学	1前	1								兼1
	スポーツ実習	1前	1								兼1	
	外国語	英語講読・記述	1後	2								兼1
		英会話 I (入門)	1前	2								兼1
		英会話 II (基礎)	1後	2								兼1
		英会話 III (発展)	2前	2								兼1
		医療英語	3前	2								兼1
		フランス語	1前	2								兼1
		韓国語	1前	2								兼1
	情報科学	情報リテラシー	1前	2								兼1
		情報科学	1後	2								兼1
小計(30科目)			-	14	31	0	2	0	3	0	0	
看護の基盤をつくる分野	体の仕組みと働き I (呼吸・循環・血液・消化器系)	1前	2									兼8
	体の仕組みと働き II (骨格・筋・神経・腎・泌尿器・内分泌・生殖系)	1後	2									兼7
	解剖生理学演習	3前	1									兼1
	生活健康科学	1前	2									兼1
	リラクゼーション論	3前	1									兼1
	医学・医療概論	1前	1									兼1
	病原微生物学	1後	2									兼2
	病態生理学	1後	2									兼2
	治療学総論	1後	1									兼6
	栄養学	1後	2									兼1
	臨床薬理学	1後	2									兼1
	疾病治療論 I (呼吸・循環・血液・腎・泌尿器系)	2前	2									兼6
	疾病治療論 II (骨格・筋・神経・内分泌・生殖系)	2前	2									兼6
	疾病治療論 III (感覚・免疫・消化器系)	2前	2									兼6
	医用機器概論	3前	1									兼1
地域の健康	わかやま学	1前	2			2	1	2				
	公衆衛生学	2前	2									兼1
	社会福祉論	2前	2									兼1
	保健医療福祉行政論	2後	2									兼3
	疫学・保健統計論	2後	2									兼1
	学校保健 I (学校保健の概要と関係法規)	2後	1									兼1
	学校保健 II (学校保健と学習指導要領)	3後	1									兼1

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
豊かな人間性を育む分野	スタディ・スキル	1前	1			1		3	1				
	いのち・人間	心理学	1前	2									兼1
		哲学と宗教	1前	2									兼1
		芸術	2後	1									兼1
		教育心理学	2前	2									兼1
		生命倫理学	1後	1									兼1
	社会参加	コミュニケーション概論	1後	2									兼1
		経済学	2後	2									兼1
		社会学	1前	2			3	1					兼1
		日本国憲法	1前	2									兼1
		国際関係論	2後	1									兼1
		ジェンダー論	2後	1									兼1
		文化人類学	2後	1									兼1
		ボランティア論	1前	1									兼1
	ボランティア活動	1後	1									兼1	
	自然科学	生物学	1前	1									兼1
		化学	1前	1									兼1
		データサイエンス	1後	2									兼1
		物理学	1前	1									兼1
		スポーツ科学	1前	1									兼1
	スポーツ実習	1前	1									兼1	
	外国語	英語講読・記述	1後	2									兼1
		英会話 I (入門)	1前	2									兼1
		英会話 II (基礎)	1後	2									兼1
		英会話 III (発展)	2前	2									兼1
		医療英語	3前	2									兼1
		フランス語	1前	2									兼1
		韓国語	1前	2									兼1
	情報科学	情報リテラシー	1前	2									兼1
		情報科学	1後	2									兼1
小計(30科目)			-	14	31	0	4	1	3	1	0		
看護の基盤をつくる分野	体の仕組みと働き I (呼吸・循環・血液・消化器系)	1前	2									兼8	
	体の仕組みと働き II (骨格・筋・神経・腎・泌尿器・内分泌・生殖系)	1後	2									兼7	
	解剖生理学演習	3前	1									兼1	
	生活健康科学	1前	2									兼1	
	リラクゼーション論	3前	1									兼1	
	医学・医療概論	1前	1									兼1	
	病原微生物学	1後	2									兼2	
	病態生理学	1後	2									兼1	
	治療学総論	1後	1									兼6	
	栄養学	1後	2									兼1	
	臨床薬理学	1後	2									兼1	
	疾病治療論 I (呼吸・循環・血液・腎・泌尿器系)	2前	2									兼6	
	疾病治療論 II (骨格・筋・神経・内分泌・生殖系)	2前	2									兼7	
	疾病治療論 III (感覚・免疫・消化器系)	2前	2									兼6	
	医用機器概論	3前	1									兼1	
地域の健康	わかやま学	1前	2			2	1	2					
	公衆衛生学	2前	2									兼1	
	社会福祉論	2前	2									兼1	
	保健医療福祉行政論	2後	2									兼2	
	疫学・保健統計論	2後	2									兼1	
	学校保健 I (学校保健の概要)	2後	1									兼1	
	学校保健 II (学校保健と学習指導要領)	3後	1									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教	准教	講	助	助	
看護の基礎をつくる分野	キャリア教育Ⅰ(仕事と職業)	1後	1								兼1
	キャリア教育Ⅱ(専門職と倫理)	2後	1			1					
	キャリア教育Ⅲ(看護職のキャリア)	3前	1			1					
	医療マネジメント論	3前		2							兼1
小計(26科目)			-	33	9	0	4	1	2	0	0
看護実践能力を高める分野	看護学概論	1前	2			1					
	基礎看護援助論Ⅰ(看護技術の基本)	1前	1				1	1	1		
	基礎看護援助論Ⅱ(生命兆候と体の観察)	1後	1				1	1	1		
	基礎看護援助論Ⅲ(快適な環境と清潔)	1後	1				1	1	1		
	基礎看護援助論Ⅳ(食事と排泄)	2前	1				1	1	1		
	臨床看護技術	2前	1				1	1	1		
	クリティカル・シンキングⅠ(論理的思考)	1前	1								兼1
	クリティカル・シンキングⅡ(看護過程演習)	2前	1			1	6	8			
	クリティカル・シンキングⅢ(研究計画演習)	3前	1			7	1				
	看護倫理	3前	1				2	1	1		
	基礎看護援助実習Ⅰ(観察実習・体験実習)	1通	1			1	2	4	2	3	
	基礎看護援助実習Ⅱ(看護展開実習)	2後	2			1	4	7	6	5	
	母性看護学概論	2前	1			1					
	母性看護援助論Ⅰ(ウイメンズ・ヘルスと看護)	2後	2			1	1				
	母性看護援助論Ⅱ(周産期の看護)	3前	1			1	1				
	母性看護学実習	3後4前	2			1	1				
	小児看護学概論	2前	1								兼1
	小児看護援助論Ⅰ(子どもの成長発達と看護)	2後	2					2	1		兼1
	小児看護援助論Ⅱ(健康障害をもつ子どもの看護)	3前	1			1		2	1		
	小児看護学実習	3後4前	2			1		2	1		
養護概論	3前		2		1						
学校健康相談	3前		2		1						
地域療養生活支援	成人看護学概論	1後	1			1					
	急性期看護援助論	2前	2			1	1		1		
	慢性期・回復期看護援助論	2後	2				1	1			
	終末期看護援助論	3前	1				1	1			
	健康教育演習	3前		1			2	1	1		
	急性期看護学実習	3後4前	3			1	1		1		
	慢性期・回復期看護学実習	3後4前	3				1	1			
	老年看護学概論	1後	1			1					
	老年看護援助論Ⅰ(高齢者の健康生活を支える看護)	2前	2			1	1	1	1		
	老年看護援助論Ⅱ(健康障害をもつ高齢者の看護)	2後	1			1	1	1	1		
老年看護学実習	3後4前	3			1	1	1	1	2		
地域療養生活支援	精神看護学概論	2前	1				1				
	精神看護援助論Ⅰ(心の健康を維持・増進する看護)	2後	2				1	2			
	精神看護援助論Ⅱ(心の健康障害を持つ対象者の看護)	3前	1				1	2			
	精神看護学実習	3後4前	2				1	2		1	
看護の統合と発展	地域看護学概論	1後	2			1					兼1
	地域看護活動論	2前	1			1		1	2		
	地域看護活動実習	2前	1			2		7	5	5	
	在宅看護援助論Ⅰ(在宅看護における基本技術)	2後	2			1			2		
	在宅看護援助論Ⅱ(在宅における看護過程)	3前	1			1			2	5	
	在宅看護学実習	3後4前	2			1			2	1	
	公衆衛生看護活動論	3前		2		1		1			
	国際看護学	3前	1								兼1
	災害看護援助論Ⅰ(災害医療・看護の基礎)	4後	1								兼2
	災害看護援助論Ⅱ(災害看護活動)	4後		1							兼2
	看護マネジメント	3前		2		1	1				
	医療安全管理学	2前	2			2					
看護統合実習	4前	2			6	6	8	6	5		
小計(50科目)			-	66	10	0	43	44	61	42	27

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教	准教	講	助	助	
看護の基礎をつくる分野	キャリア教育Ⅰ(仕事と職業)	1後	1								兼1
	キャリア教育Ⅱ(専門職と倫理)	2後	1				1				
	キャリア教育Ⅲ(看護職のキャリア)	3前	1				1				
	医療マネジメント論	3前		2							兼1
小計(26科目)			-	33	9	0	4	1	2	0	0
看護実践能力を高める分野	看護学概論	1前	2			1					
	基礎看護援助論Ⅰ(看護技術の基本)	1前	1					1	1	2	
	基礎看護援助論Ⅱ(生命兆候と体の観察)	1後	1					1	1	2	
	基礎看護援助論Ⅲ(快適な環境と清潔)	1後	1					1	1	2	
	基礎看護援助論Ⅳ(食事と排泄)	2前	1					1	1	2	
	臨床看護技術	2前	1					1	1	2	
	クリティカル・シンキングⅠ(論理的思考)	1前	1								兼1
	クリティカル・シンキングⅡ(看護過程演習)	2前	1			1	6	7			
	クリティカル・シンキングⅢ(研究計画演習)	3前	1					6	3		
	看護倫理	3前	1					2	1	1	
	基礎看護援助実習Ⅰ(看護観察・体験実習)	1通	1			1	2	4	3	4	
	基礎看護援助実習Ⅱ(看護展開実習)	2後	2			1	4	6	7	4	
	母性看護学概論	2前	1			1					
	母性看護援助論Ⅰ(ウイメンズ・ヘルスと看護)	2後	2			1	1		1		
	母性看護援助論Ⅱ(周産期の看護)	3前	1			1	1		1		
	母性看護学実習	3後4前	2			1	1		1		
	小児看護学概論	2前	1					1			
	小児看護援助論Ⅰ(子どもの成長発達と看護)	2後	2					1		2	1
	小児看護援助論Ⅱ(健康障害をもつ子どもの看護)	3前	1			1			2	1	
	小児看護学実習	3後4前	2			1			2	1	
養護概論	3前		2		1						
学校健康相談	3前		2		1						
地域療養生活支援	成人看護学概論	1後	1						1		
	急性期看護援助論	2前	2						2	1	1
	慢性期・回復期看護援助論	2後	2						2	1	1
	終末期看護援助論	3前	1						2		
	健康教育演習	3前		1					2		
	急性期看護学実習	3後4前	3						2	1	1
	慢性期・回復期看護学実習	3後4前	3						2	1	1
	老年看護学概論	1後	1			1					
	老年看護援助論Ⅰ(高齢者の健康生活を支える看護)	2前	2			1	1	1	1	1	
	老年看護援助論Ⅱ(健康障害をもつ高齢者の看護)	2後	1			1	1	1	1	1	
老年看護学実習	3後4前	3			1	1	1	1	1	1	
地域療養生活支援	精神看護学概論	2前	1					1			
	精神看護援助論Ⅰ(心の健康を維持・増進する看護)	2後	2					1	2		
	精神看護援助論Ⅱ(心の健康障害を持つ対象者の看護)	3前	1					1	2		
	精神看護学実習	3後4前	2					1	2		1
看護の統合と発展	地域看護学概論	1後	2						2		
	地域看護活動論	2前	1					1		1	2
	地域看護活動実習	2前	1					1		8	5
	在宅看護援助論Ⅰ(在宅看護における基本技術)	2後	2					1			2
	在宅看護援助論Ⅱ(在宅における看護過程)	3前	1					6	7	10	8
	在宅看護学実習	3後4前	2					1			2
	公衆衛生看護活動論	3前		2				1		1	1
	国際看護学	3前	1								
	災害看護援助論Ⅰ(災害医療・看護の基礎)	4後	1								
	災害看護援助論Ⅱ(災害看護活動)	4後		1							
	看護マネジメント	3前		2		1	1				
	医療安全管理学	2前	2						1		
看護統合実習	4前	2			5	7	11	8	4		
小計(50科目)			-	66	10	0	44	60	76	59	23

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
公衆衛生看護 関連科目看護	公衆衛生看護活動展開論	4前		3		1		1				
	公衆衛生看護管理論	4後		1		1						
	産業保健	3後		1				1				
	公衆衛生看護学実習	4通		5		2		1	1			
小計(4科目)			-	0	10	0	4	0	3	1	0	
看護教諭教職関連科目	教職への道	2前		2								兼1
	教育原理	2前		1								兼1
	教育制度論	2後		1				1				
	教育課程論	2前		1				1				
	道德教育の理論と方法	2後		1								兼1
	教育方法論	2後		1								兼1
	特別活動の指導法	2後		1								兼1
	生徒指導論	3後		2								兼1
	学校教育相談	3後		2		1						
	看護実習事前・事後指導	4通		1		1						
	看護実習	4通		4		1						
教職実践演習(看護教諭)	4通		2		1							
小計(12科目)			-	0	19	0	4	0	2	0	0	
合計(122科目)			-	113	79	0	57	45	71	43	27	
卒業要件及び履修方法												
卒業要件は、必修科目113単位、選択科目13単位以上を修得し、合計126単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:44単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
公衆衛生看護 科目看護関連	公衆衛生看護活動展開論	4前		3		1			2			
	公衆衛生看護管理論	4後		1		1			1			
	産業保健	3後		1				1				
	公衆衛生看護学実習	4通		5		2		2	1			
小計(4科目)			-	0	10	0	4	0	6	1	0	
看護教諭教職関連科目	教職論	2前		2								兼1
	教育原理	2前		1								兼2
	教育制度論	2後		1				1				
	特別支援教育の基礎	3前		1								兼1
	教育課程論	2前		1				1				兼2
	道德教育/総合的な学習の時間の指導法	3前		1								兼2
	教育方法論	2後		1								兼2
	特別活動の指導法	2後		1		1						兼1
	生徒指導論	3後		1								兼1
	学校教育相談	3後		2		1						
	看護実習事前・事後指導	4通		1		1						
	看護実習	4通		4		1						
教職実践演習(看護教諭)	4通		2		1							
小計(13科目)			-	0	19	0	5	0	2	0	0	
合計(123科目)			-	113	79	0	61	62	89	61	23	
卒業要件及び履修方法												
卒業要件は、必修科目113単位、選択科目13単位以上を修得し、合計126単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:44単位(年間))												

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
豊かな人間性を育む分野	スタディ・スキル	1前	1			2		3	1			
	いのち・人間	心理学	1前	2								兼1
		哲学と宗教	1前	2								兼1
		芸術	2後	1								兼1
		教育心理学	2前	2								兼1
		生命倫理学	1後	1								兼1
	社会参加	コミュニケーション概論	1後	2								兼1
		経済学	2後	2								兼1
		社会学	1前	2								兼1
		日本国憲法	1前	2								兼1
		国際関係論	2後	1								兼1
		ジェンダー論	2後	1								兼1
		文化人類学	2後	1								兼1
		ボランティア論	1前	1								兼1
		ボランティア活動	1後	1								兼1
	自然科学	生物学	1前	1								兼1
		化学	1前	1								兼1
		データサイエンス	1後	2								兼1
		物理学	1前	1								兼1
		スポーツ科学	1前	1								兼1
		スポーツ実習	1前	1								兼1
	外国語	英語講読・記述	1後	2								兼1
		英会話Ⅰ(入門)	1前	2								兼1
		英会話Ⅱ(基礎)	1後	2								兼1
		英会話Ⅲ(発展)	2前	2								兼1
		医療英語	3前	2								兼1
		フランス語	1前	2								兼1
		韓国語	1前	2								兼1
		情報リテラシー	1前	2								兼1
	情報科学	1後	2								兼1	
小計(30科目)			-	14	33	0	2	0	3	1	0	
看護の基盤をつくる分野	体の仕組みと働きⅠ (呼吸・循環・血液・消化器系)	1前	2								兼8	
	体の仕組みと働きⅡ (骨格・筋・神経・腎・内分泌・生殖系)	1後	2								兼7	
	解剖生理学演習	3前	1								兼1	
	生活健康科学	1前	2								兼1	
	リラクゼーション論	3前	1								兼1	
	医学・医療概論	1前	1								兼1	
	病原微生物学	1後	2								兼2	
	病態生理学	1後	2								兼1	
	治療学総論	1後	1								兼6	
	栄養学	1後	2								兼1	
	臨床薬理学	1後	2								兼1	
	疾病治療論Ⅰ (呼吸・循環・血液・腎・泌尿器系)	2前	2								兼6	
	疾病治療論Ⅱ (骨格・筋・神経・内分泌・生殖系)	2前	2								兼6	
	疾病治療論Ⅲ (感覚・免疫・消化器系)	2前	2								兼6	
	医用機器概論	3前	1								兼1	
地域の健康	わかやま学	1前	2			2	1	2				
	公衆衛生学	2前	2								兼1	
	社会福祉論	2前	2								兼1	
	保健医療福祉行政論	2後	2								兼2	
	疫学・保健統計論	2後	2								兼1	
	学校保健Ⅰ (学校保健の概要)	2後	1								兼1	
	学校保健Ⅱ (学校保健と学習指導要領)	3後	1								兼1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
豊かな人間性を育む分野	スタディ・スキル	1前	1			2		3	1			
	いのち・人間	心理学	1前	2								兼1
		哲学と宗教	1前	2								兼1
		芸術	2後	1								兼1
		教育心理学	2前	2								兼1
		生命倫理学	1後	1								兼1
	社会参加	コミュニケーション概論	1後	2								兼1
		経済学	2後	2								兼1
		社会学	1前	2				3	1			兼1
		日本国憲法	1前	2								兼1
		国際関係論	2後	1								兼1
		ジェンダー論	2後	1								兼1
		文化人類学	2後	1								兼1
		ボランティア論	1前	1								兼1
		ボランティア活動	1後	1								兼1
	自然科学	生物学	1前	1								兼1
		化学	1前	1								兼1
		データサイエンス	1後	2								兼1
		物理学	1前	1								兼1
		スポーツ科学	1前	1								兼1
		スポーツ実習	1前	1								兼1
	外国語	英語講読・記述	1後	2								兼1
		英会話Ⅰ(入門)	1前	2								兼1
		英会話Ⅱ(基礎)	1後	2								兼1
		英会話Ⅲ(発展)	2前	2								兼1
		医療英語	3前	2								兼1
		フランス語	1前	2								兼1
		韓国語	1前	2								兼1
		情報リテラシー	1前	2								兼1
	情報科学	1後	2								兼1	
小計(30科目)			-	14	31	0	5	1	3	1	0	
看護の基盤をつくる分野	体の仕組みと働きⅠ (呼吸・循環・血液・消化器系)	1前	2								兼8	
	体の仕組みと働きⅡ (骨格・筋・神経・腎・内分泌・生殖系)	1後	2								兼7	
	解剖生理学演習	3前	1								兼1	
	生活健康科学	1前	2								兼1	
	リラクゼーション論	3前	1								兼1	
	医学・医療概論	1前	1								兼1	
	病原微生物学	1後	2								兼2	
	病態生理学	1後	2								兼1	
	治療学総論	1後	1								兼6	
	栄養学	1後	2								兼1	
	臨床薬理学	1後	2								兼1	
	疾病治療論Ⅰ (呼吸・循環・血液・腎・泌尿器系)	2前	2								兼6	
	疾病治療論Ⅱ (骨格・筋・神経・内分泌・生殖系)	2前	2								兼6	
	疾病治療論Ⅲ (感覚・免疫・消化器系)	2前	2								兼6	
	医用機器概論	3前	1								兼1	
地域の健康	わかやま学	1前	2			2	1	2				
	公衆衛生学	2前	2								兼1	
	社会福祉論	2前	2								兼1	
	保健医療福祉行政論	2後	2								兼2	
	疫学・保健統計論	2後	2								兼1	
	学校保健Ⅰ (学校保健の概要)	2後	1								兼1	
	学校保健Ⅱ (学校保健と学習指導要領)	3後	1								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
チーム医療と専門職	キャリア教育Ⅰ(仕事と職業)	1後	1								兼1	
	キャリア教育Ⅱ(専門職と倫理)	2後	1			1						
	キャリア教育Ⅲ(看護職のキャリア)	3前	1			1						
	医療マネジメント論	3前		2							兼1	
小計(26科目)			-	33	9	0	4	1	2	0	0	
看護実践能力を高める分野	看護学概論	1前	2			1						
	基礎看護援助論Ⅰ(看護技術の基本)	1前	1				1	1	1			
	基礎看護援助論Ⅱ(生命兆候と体の観察)	1後	1				1	1	1			
	基礎看護援助論Ⅲ(快適な環境と清潔)	1後	1				1	1	1			
	基礎看護援助論Ⅳ(食事と排泄)	2前	1				1	1	1			
	臨床看護技術	2前	1				1	1	1			
	クリティカル・シンキングⅠ(論理的思考)	1前	1								兼1	
	クリティカル・シンキングⅡ(看護過程演習)	2前	1			1	6	7				
	クリティカル・シンキングⅢ(研究計画演習)	3前	1			7	1					
	看護倫理	3前	1				2	1	1			
	基礎看護援助実習Ⅰ(早期体験実習)	1通	1			1	2	4	2	3		
	基礎看護援助実習Ⅱ(看護展開実習)	2後	2			1	4	6	6	5		
	地域育成支援	母性看護学概論	2前	1			1					
母性看護援助論Ⅰ(ウイメンズ・ヘルスと看護)		2後	2			1	1					
母性看護援助論Ⅱ(周産期の看護)		3前	1			1	1					
母性看護学実習		3後4前	2			1	1					
小児看護学概論		2前	1								兼1	
小児看護援助論Ⅰ(子どもの成長発達と看護)		2後	2					2	1		兼1	
小児看護援助論Ⅱ(健康障害をもつ子どもの看護)		3前	1			1		2	1			
小児看護学実習		3後4前	2			1		2	1			
養護概論		3前		2		1						
学校健康相談		3前		2		1						
看護実践能力を高める分野	成人看護学概論	1後	1			1						
	急性期看護援助論	2前	2			1	1		1			
	慢性期・回復期看護援助論	2後	2				1					
	終末期看護援助論	3前	1				1					
	健康教育演習	3前		1			2					
	急性期看護学実習	3後4前	3			1	1		1			
	慢性期・回復期看護学実習	3後4前	3			1						
	老年看護学概論	1後	1									
	老年看護援助論Ⅰ(高齢者の健康生活を支える看護)	2前	2			1	1	1				
	老年看護援助論Ⅱ(健康障害をもつ高齢者の看護)	2後	1			1	1	1				
	老年看護学実習	3後4前	3			1	1	1		2		
	地域療養生活支援	精神看護学概論	2前	1				1				
		精神看護援助論Ⅰ(心の健康を維持・増進する看護)	2後	2				1	2			
精神看護援助論Ⅱ(心の健康障害を持つ対象の看護)		3前	1				1	2				
精神看護学実習		3後4前	2				1	2		1		
看護の統合と発展	地域看護学概論	1後	2			1					兼1	
	地域看護活動論	2前	1			1		1	2			
	地域看護活動実習	2前	1			1		6	5	5		
	在宅看護援助論Ⅰ(在宅看護における基本技術)	2後	2			1			2			
	在宅看護援助論Ⅱ(在宅における看護過程)	3前	1			1			2	5		
	在宅看護学実習	3後4前	2			1			2	1		
	公衆衛生看護活動論	3前		2		1		1	1			
	国際看護学	3前	1								兼1	
	災害看護援助論Ⅰ(災害医療・看護の基礎)	4後	1								兼2	
	災害看護援助論Ⅱ(災害看護活動)	4後		1							兼2	
	看護マネジメント	3前		2		1	1					
	医療安全管理学	2前	2			2						
	看護統合実習	4前	2			6	6	7	6	5		
小計(50科目)			-	66	10	0	42	44	53	39	27	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
チーム医療と専門職	キャリア教育Ⅰ(仕事と職業)	1後	1									兼1	
	キャリア教育Ⅱ(専門職と倫理)	2後	1				1						
	キャリア教育Ⅲ(看護職のキャリア)	3前	1				1						
	医療マネジメント論	3前		2								兼1	
小計(26科目)			-	33	9	0	4	1	2	0	0		
看護実践能力を高める分野	看護学概論	1前	2			1							
	基礎看護援助論Ⅰ(看護技術の基本)	1前	1				1	1	2				
	基礎看護援助論Ⅱ(生命兆候と体の観察)	1後	1				1	1	1	2			
	基礎看護援助論Ⅲ(快適な環境と清潔)	1後	1				1	1	1	2			
	基礎看護援助論Ⅳ(食事と排泄)	2前	1				1	1	1	2			
	臨床看護技術	2前	1				1	1	1	2			
	クリティカル・シンキングⅠ(論理的思考)	1前	1									兼1	
	クリティカル・シンキングⅡ(看護過程演習)	2前	1			1	6	7					
	クリティカル・シンキングⅢ(研究計画演習)	3前	1			7	2						
	看護倫理	3前	1				2	1	1				
	基礎看護援助実習Ⅰ(看護観察・体験実習)	1通	1			1	2	4	3	4			
	基礎看護援助実習Ⅱ(看護展開実習)	2後	2			1	4	6	7	4			
	地域育成支援	母性看護学概論	2前	1			1						
母性看護援助論Ⅰ(ウイメンズ・ヘルスと看護)		2後	2			1	1	1					
母性看護援助論Ⅱ(周産期の看護)		3前	1			1	1	1					
母性看護学実習		3後4前	2			1	1	1					
小児看護学概論		2前	1									兼1	
小児看護援助論Ⅰ(子どもの成長発達と看護)		2後	2						2	1		兼1	
小児看護援助論Ⅱ(健康障害をもつ子どもの看護)		3前	1			1		2	1				
小児看護学実習		3後4前	2			1		2	1				
養護概論		3前		2		1							
学校健康相談		3前		2		1							
看護実践能力を高める分野	成人看護学概論	1後	1			1							
	急性期看護援助論	2前	2			1	1		1				
	慢性期・回復期看護援助論	2後	2				2	1	1				
	終末期看護援助論	3前	1				2						
	健康教育演習	3前		1			2						
	急性期看護学実習	3後4前	3			1	1		1				
	慢性期・回復期看護学実習	3後4前	3			1			2	1	1		
	老年看護学概論	1後	1										
	老年看護援助論Ⅰ(高齢者の健康生活を支える看護)	2前	2			1	1	1	1	1			
	老年看護援助論Ⅱ(健康障害をもつ高齢者の看護)	2後	1			1	1	1	1	1			
	老年看護学実習	3後4前	3			1	1	1	1	1	1		
	地域療養生活支援	精神看護学概論	2前	1				1					
		精神看護援助論Ⅰ(心の健康を維持・増進する看護)	2後	2				1	2				
精神看護援助論Ⅱ(心の健康障害を持つ対象の看護)		3前	1				1	2					
精神看護学実習		3後4前	2				1	2		1			
看護の統合と発展	地域看護学概論	1後	2			1						兼1	
	地域看護活動論	2前	1			1		1	2				
	地域看護活動実習	2前	1			1		8	5	4			
	在宅看護援助論Ⅰ(在宅看護における基本技術)	2後	2			1			2				
	在宅看護援助論Ⅱ(在宅における看護過程)	3前	1			1		7	7	9	9	4	
	在宅看護学実習	3後4前	2			1			2	1			
	公衆衛生看護活動論	3前		2		1		1	1				
	国際看護学	3前	1									兼1	
	災害看護援助論Ⅰ(災害医療・看護の基礎)	4後	1									兼2	
	災害看護援助論Ⅱ(災害看護活動)	4後		1								兼2	
	看護マネジメント	3前		2		1	1						
	医療安全管理学	2前	2			2							
	看護統合実習	4前	2			7	7	9	9	4			
小計(50科目)			-	66	10	0	49	56	71	61	23		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
公衆衛生看護関連	公衆衛生看護活動展開論	4前		3		1		1	1		
	公衆衛生看護管理論	4後		1		1			1		
	産業保健	3後		1				1			
	公衆衛生看護学実習	4通		5		2		1	2		
小計(4科目)			-	0	10	0	4	0	3	4	0
養護教諭教職関連	教職への道	2前		2							兼1
	教育原理	2前		1							兼2
	教育制度論	2後		1				1			
	教育課程論	2前		1				1			兼2
	道德教育の理論と方法	2後		1							兼2
	教育方法論	2後		1							兼2
	特別活動の指導法	2後		1							兼2
	生徒指導論	3後		2							兼1
	学校教育相談	3後		2		1					
	養護実習事前・事後指導	4通		1		1					
	養護実習	4通		4		1					
	教職実践演習(養護教諭)	4通		2		1					
小計(12科目)			-	0	19	0	4	0	2	0	0
合計(122科目)			-	113	81	0	56	45	63	44	27
卒業要件及び履修方法											
卒業要件は、必修科目113単位、選択科目13単位以上を修得し、合計126単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:44単位(年間))											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
公衆衛生看護関連	公衆衛生看護活動展開論	4前		3		1		1	1		
	公衆衛生看護管理論	4後		1		1			1		
	産業保健	3後		1				1			
	公衆衛生看護学実習	4通		5		2		1	2		
小計(4科目)			-	0	10	0	4	0	3	4	0
養護教諭教職関連	教職論	2前		2							兼1
	教育原理	2前		1							兼2
	教育制度論	2後		1				1			
	特別支援教育の基礎	3前		1							兼1
	教育課程論	2前		1				1			兼2
	道德教育/総合的な学習の時間の指導法	3前		1							兼2
	教育方法論	2後		1							兼2
	特別活動の指導法	2後		1		1					兼1
	生徒指導論	3後		1							兼1
	学校教育相談	3後		2		1					
	養護実習事前・事後指導	4通		1		1					
	養護実習	4通		4		1					
	教職実践演習(養護教諭)	4通		2		1					
小計(13科目)			-	0	19	0	5	0	2	0	0
合計(123科目)			-	113	79	0	67	58	81	66	23
卒業要件及び履修方法											
卒業要件は、必修科目113単位、選択科目13単位以上を修得し、合計126単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:44単位(年間))											

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任 兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
豊かな人間性を育む分野	スタディ・スキル	1前	1			2		3	1			
	いのち・人間	心理学	1前	2								兼1
		哲学と宗教	1前		2							兼1
		芸術	2後		1							兼1
		教育心理学	2前		2							兼1
		生命倫理学	1後		1							兼1
	社会参加	コミュニケーション概論	1後		2							兼1
		経済学	2後		2							兼1
		社会学	1前		2		3	1				
		日本国憲法	1前		2							兼1
		国際関係論	2後		1							兼1
		ジェンダー論	2後		1							兼1
		文化人類学	2後		1							兼1
		ボランティア論	1前	1								兼1
		ボランティア活動	1後		1							兼1
	自然科学	生物学	1前		1							兼1
		化学	1前		1							兼1
		データサイエンス	1後	2								兼1
		物理学	1前		1							兼1
		スポーツ科学	1前		1							兼1
		スポーツ実習	1前		1							兼1
	外国語	英語講読・記述	1後	2								兼1
		英会話Ⅰ(入門)	1前	2								兼1
		英会話Ⅱ(基礎)	1後	2								兼1
		英会話Ⅲ(発展)	2前		2							兼1
		医療英語	3前		2							兼1
		フランス語	1前		2							兼1
		韓国語	1前		2							兼1
	情報科学	情報リテラシー	1前	2								兼1
		情報科学	1後		2							兼1
小計(30科目)			-	14	31	0	5	1	3	1	0	
看護の基盤をつくる分野	人のからだと健康	体の仕組みと働きⅠ (呼吸・循環・血液・消化器系)	1前	2								兼8
		体の仕組みと働きⅡ (骨格・筋・神経・腎・内分泌・生殖系)	1後	2								兼7
		解剖生理学演習	3前		1							兼1
		生活健康科学	1前		2							兼1
		リラクゼーション論	3前		1							兼1
		医学・医療概論	1前	1								兼1
		病原微生物学	1後	2								兼2
		病態生理学	1後	2								兼1
		治療学総論	1後	1								兼6
		栄養学	1後	2								兼1
		臨床薬理学	1後	2								兼1
		疾病治療論Ⅰ (呼吸・循環・血液・腎・泌尿器系)	2前	2								兼6
		疾病治療論Ⅱ (骨格・筋・神経・内分泌・生殖系)	2前	2								兼7
		疾病治療論Ⅲ (感覚・免疫・消化器系)	2前	2								兼6
	医用機器概論	3前		1							兼1	
	地域の健康	わかやま学	1前	2			2	1	2			
		公衆衛生学	2前	2								兼1
		社会福祉論	2前	2								兼1
		保健医療福祉行政論	2後	2								兼2
		疫学・保健統計論	2後	2								兼1
学校保健Ⅰ (学校保健の概要)		2後		1							兼1	
学校保健Ⅱ (学校保健と学習指導要領)	3後		1							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
看護の基礎をつくる分野	キャリア教育Ⅰ (仕事と職業)	1後	1									兼1	
	キャリア教育Ⅱ (専門職と倫理)	2後	1			1							
	キャリア教育Ⅲ (看護職のキャリア)	3前	1			1							
	医療マネジメント論	3前		2									兼1
小計(26科目)			-	33	9	0	4	1	2	0	0		
看護実践能力を高める分野	看護学概論	1前	2			1						兼1	
	基礎看護援助論Ⅰ (看護技術の基本)	1前	1				1	1	2				
	基礎看護援助論Ⅱ (生命兆候と体の観察)	1後	1				1	1	2				
	基礎看護援助論Ⅲ (快適な環境と清潔)	1後	1				1	1	2				
	基礎看護援助論Ⅳ (食事と排泄)	2前	1				1	1	2				
	臨床看護技術	2前	1				1	1	2				
	クリティカル・シンキングⅠ (論理的思考)	1前	1										
	クリティカル・シンキングⅡ (看護過程演習)	2前	1			1	6	7					
	クリティカル・シンキングⅢ (研究計画演習)	3前	1			7	2						
	看護倫理	3前	1				2	1	1				
	基礎看護援助実習Ⅰ (看護観察・体験実習)	1通	1			1	2	4	3	4			
	基礎看護援助実習Ⅱ (看護展開実習)	2後	2			1	4	6	7	4			
	母性看護学概論	2前	1			1							
	母性看護援助論Ⅰ (ウイメンズ・ヘルスと看護)	2後	2			1	1	1	1				
	母性看護援助論Ⅱ (围産期の看護)	3前	1			1	1	1	1				
	母性看護学実習	3後4前	2			1	1	1	1				
	小児看護学概論	2前	1			1							
	小児看護援助論Ⅰ (子どもの成長発達と看護)	2後	2			1		2	1				
	小児看護援助論Ⅱ (健康障害をもつ子どもの看護)	3前	1			1		2	1				
	小児看護学実習	3後4前	2			1		2	1				
	養護概論	3前		2		1							
	学校健康相談	3前		2		1							
	地域療養生活支援	成人看護学概論	1後	1			1						
		急性期看護援助論	2前	2			1	1	1				
		慢性期・回復期看護援助論	2後	2				2	1	1			
		終末期看護援助論	3前	1				2					
		健康教育演習	3前		1			2					
		急性期看護学実習	3後4前	3			1	1	1				
		慢性期・回復期看護学実習	3後4前	3				2	1	1			
		老年看護学概論	1後	1			1						
		老年看護援助論Ⅰ (高齢者の健康生活を支える看護)	2前	2			1	1	1	1			
		老年看護援助論Ⅱ (健康障害をもつ高齢者の看護)	2後	1			1	1	1	1			
		老年看護学実習	3後4前	3			1	1	1	1	1		
		地域療養生活支援	精神看護学概論	2前	1				1				
	精神看護援助論Ⅰ (心の健康を維持・増進する看護)		2後	2				1	2				
	精神看護援助論Ⅱ (心の健康障害を持つ対象の看護)		3前	1				1	2				
	精神看護学実習		3後4前	2				1	2	1			
	看護の統合と発展	地域看護学概論	1後	2			2						
		地域看護活動論	2前	1			1		1	2			
		地域看護活動実習	2前	1			1		8	5	4		
		在宅看護援助論Ⅰ (在宅看護における基本技術)	2後	2			1			2			
		在宅看護援助論Ⅱ (在宅における看護過程)	3前	1			7	7	9	8	4		
		在宅看護学実習	3後4前	2			1			2	1		
		公衆衛生看護活動論	3前		2		1		1	1			
		国際看護論	3前	1									兼1
		災害看護援助論Ⅰ (災害医療・看護の基礎)	4後	1									兼2
		災害看護援助論Ⅱ (災害看護活動)	4後		1								兼2
		看護マネジメント	3前		2		1	1					
		医療安全管理学	2前	2			2						
		看護統合実習	4前	2			6	7	9	8	4		
小計(50科目)			-	66	10	0	51	56	71	59	23		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
公衆衛生看護関連科目	公衆衛生看護活動展開論	4前		3		1		2				
	公衆衛生看護管理論	4後		1		1		1				
	産業保健	3後		1				1				
	公衆衛生看護学実習	4通		5		2		2		1		
小計(4科目)			-	0	10	0	4	0	6	1	0	
養護教諭教職関連科目	教職論	2前		2								兼1
	教育原理	2前		1								兼2
	教育制度論	2後		1				1				
	特別支援教育の基礎	3前		1								兼1
	教育課程論	2前		1				1				兼2
	道徳教育/総合的な学習の時間の指導法	3前		1								兼2
	教育方法論	2後		1								兼2
	特別活動の指導法	2後		1		1						兼1
	生徒指導論	3後		1								兼1
	学校教育相談	3後		2		1						
	養護実習事前・事後指導	4通		1		1						
養護実習	4通		4		1							
教職実践演習(養護教諭)	4通		2		1							
小計(13科目)			-	0	19	0	5	0	2	0	0	
合計(123科目)			-	113	79	0	69	58	84	61	23	
卒業要件及び履修方法												
卒業要件は、必修科目113単位、選択科目13単位以上を修得し、合計126単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:44単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・養護教諭課程申請時の文部科学省からの指導や錯誤等の理由により、授業科目の名称を変更。
変更科目：
「体の仕組みと働きⅡ(骨格・筋・神経・腎・泌尿器・内分泌・生殖器系)」→「体の仕組みと働きⅡ(骨格・筋・神経・腎・内分泌・生殖器系)」
「学校保健Ⅰ(学校保健の概要と関係法規)」→「学校保健Ⅰ(学校保健の概要)」
「基礎看護援助実習Ⅰ(観察実習・体験実習)」→「基礎看護援助実習Ⅰ(早期体験実習)」
- ・養護教諭課程申請時の文部科学省よりの指導ややむを得ない事由等の理由により教員の変更があった為、専任教員等の配置欄及び兼任・兼任欄の人数等を変更。
専任教員等の配置変更科目：
「クリティカル・シンキングⅡ(看護過程演習)」、「基礎看護援助実習Ⅱ(看護展開実習)」、「慢性期・回復期看護援助論」「終末期看護援助論」、「健康教育演習」、「慢性期・回復期看護学実習」、「老年看護援助論Ⅰ」、「老年看護援助論Ⅱ」、「老年看護学実習」、「地域看護活動実習」、「公衆衛生看護活動論」、「看護統合実習」、「公衆衛生看護活動展開論」、「公衆衛生看護管理論」、「公衆衛生看護学実習」
- 兼任・兼任欄変更科目：
「病態生理学」、「保健医療福祉行政論」、「教育原理」、「教育課程論」、「道德教育の理論と方法」、「教育方法論」、「特別活動の指導法」

【令和元年度】

- ・錯誤等の理由により、授業科目の名称を変更。
「基礎看護援助実習Ⅰ(早期体験実習)」→「基礎看護援助実習Ⅰ(看護観察・体験実習)」
- ・法改正による教職課程カリキュラム改定に対応するため、再課程認定申請において以下を申請。
平成31年3月27日付けで認定通知を受理。
名称変更科目：
「教職への道」→「教職論」
授業科目の新設：
「特別支援教育の基礎」
「道德教育/総合的な学習の時間の指導法」
単位数の変更：
生徒指導論 「2単位」→「1単位」
- ・専任教員等の配置変更科目：
「社会学」、「基礎看護援助論Ⅰ(看護技術の基本)」、「基礎看護援助論Ⅱ(生命兆候と体の観察)」、「基礎看護援助論Ⅲ(快適な環境と清潔)」、「基礎看護援助論Ⅳ(食事と排泄)」、「臨床看護技術」、「クリティカル・シンキングⅢ(研究計画演習)」、「基礎看護援助実習Ⅰ(看護観察・体験実習)」、「基礎看護援助実習Ⅱ(看護展開実習)」、「母性看護援助論Ⅰ(ウイメンズ・ヘルスと看護)」、「母性看護援助論Ⅱ(産産期の看護)」、「母性看護学実習」、「慢性期・回復期看護援助論」「終末期看護援助論」、「慢性期・回復期看護学実習」、「老年看護援助論Ⅰ(高齢者の健康生活を支える看護)」、「老年看護援助論Ⅱ(健康障害を持つ高齢者の看護)」、「地域看護活動実習」、「在宅看護援助論Ⅱ(在宅における看護過程)」、「看護統合実習」、「特別活動の指導法」
- ・兼任・兼任欄変更科目：
「特別支援教育の基礎」、「道德教育/総合的な学習の時間の指導法」

【令和2年度】

- ・錯誤等の理由により、授業科目の名称を変更。
誤：「国際看護学」→ 正：「国際看護論」
- ・錯誤等の理由により、専任教員等の配置を変更
「地域看護学概論」 誤：「教授1、兼任・兼任1」 → 正：「教授2」
「在宅看護援助論Ⅱ」 誤：「助教9」 → 正：「助教8」
「看護統合実習」 誤：「教授7、助教9」 → 正：「教授6、助教8」
「公衆衛生看護活動展開論」 誤：「講師1、助教1」 → 正：「講師2、助教0」
「公衆衛生看護管理論」 誤：「助教1」 → 正：「講師1」
「公衆衛生看護学実習」 誤：「講師1、助教2」 → 正：「講師2、助教1」
- ・やむを得ない事由等の理由により教員の変更があった為、兼任・兼任欄の人数等を変更。
兼任・兼任欄変更科目：
「生物学」、「化学」、「体の仕組みと働きⅡ」、「疾病治療論Ⅱ」、「特別活動の指導法」、「生徒指導論」

【令和3年度】

- ・やむを得ない事由等の理由により教員の変更があった為、専任教員、兼任・兼任欄の人数等を変更。
専任教員変更科目

スタディ・スキル	旧：「教授2、講師3、助教1」	新：「教授1、講師3、助教1」
クリティカルシンキングⅢ	旧：「教授7、准教授1」	新：「教授6、准教授2」
成人看護学概論	旧：「教授1」	新：「准教授1」
急性期看護援助論	旧：「教授1、准教授1、助教1」	新：「准教授2、講師1、助教1」
急性期看護学実習	旧：「教授1、准教授1、助教1」	新：「准教授2、講師1、助教1」
在宅看護援助論Ⅱ	旧：「教授7、准教授7、講師9、助教8」	新：「教授6、准教授7、講師9、助教8」
医療安全管理学	旧：「教授2」	新：「教授1」
看護統合実習	旧：「教授6、准教授7、講師9、助教8」	新：「教授5、准教授7、講師10、助教8」
- 兼任・兼任欄変更科目
「体の仕組みと働きⅠ」、「体の仕組みと働きⅡ」、「疾病治療論Ⅰ」、「疾病治療論Ⅱ」、「医用機器概論」、「教育原理」

(注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
71 科目	51 科目	0 科目	122 科目	71 科目 []	52 科目 [1]	0 科目 []	123 科目 [1]	養護教諭教職関連科目：選択科目である「特別支援教育の基礎」を追加。

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{122} = \boxed{0\%}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	(貸与者：日本赤十字社 和歌山医療センター 借用機関 2020年4月から20年間 1,361.77㎡ n/c			
	校舎敷地	37,384㎡	0㎡	0㎡	37,384㎡				
	運動場用地	10,503㎡	0㎡	0㎡	10,503㎡				
	小 計	47,887㎡	0㎡	0㎡	47,887㎡				
	そ の 他	4,597㎡	0㎡	0㎡	4,597㎡				
	合 計	52,484㎡	0㎡	0㎡	52,484㎡				
(2) 校 舎	専 用	54,428 53,093㎡ (54,428㎡)	共 用 (0㎡)	共用する他の 学校等の専用 (0㎡)	計 54,428 53,093㎡ (54,428㎡)	大学全体の定員増に伴う 校舎増 (3)			
	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
(3) 教 室 等	10 7室	9 6室	3 2室	0室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)	整備に伴う教室等増 (3)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		整備に伴う研究室増 (3)			
	和歌山看護学部看護学科			32 26 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点		
			電子ジャーナル 〔うち外国書〕						
	和歌山看護学部	4,909 [260] (7,691 [73]) (5,424 [-73])	101 [6] (99 [14]) (-76 [-7])	4,430 [2,949] 4,331 [-2,889]	4,430 [2,949] (249) (-186)	148 (148)	938 (484)	46 (46)	図書、雑誌、電子ジャーナル増加は新規購入による。(3)
	計	4,909 [260] (7,691 [73]) (5,424 [-73])	101 [6] (99 [14]) (-76 [-7])	4,430 [2,949] 4,331 [-2,889]	4,430 [2,949] (249) (-186)	148 (148)	938 (484)	46 (46)	
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	150.4 121.50㎡		44 36		5,250 4,500				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	5,678㎡								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	10,000千円	15,000千円	15,000千円	
	共同研究費等	7,000千円	7,000千円	設備購入費	40,000千円	25,000千円	25,000千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,850千円	1,600千円	1,600千円	1,550千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常経費補助金							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	東京医療保健大学						学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	2	備 考
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	
	年	人	年次	人		倍	倍	年度	年度	年度	
医療保健学部		280	—	1,120		1.03	1.07				
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.15	1.14		平成17年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17	
医療栄養学科	4	100	—	400	学士(栄養学)	1.00	1.01		平成17年度	世田谷キャンパス 東京都世田谷区世田谷3-11-3	
医療情報学科	4	80	—	320	学士(医療情報学)	0.93	1.06		平成17年度	世田谷キャンパス 東京都世田谷区世田谷3-11-3	
東が丘・立川看護学部		200	—	800		—	—				令和2年度より募集停止
看護学科	4	200	—	800	学士(看護学)	—	—		平成22年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
									平成28年度	国立病院機構立川キャンパス 東京都立川市緑町3256	
東が丘看護学部		100	—	400		1.19	1.22				
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.19	1.22		令和2年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
立川看護学部		100	—	400		1.21	1.23				
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.21	1.23		令和2年度	国立病院機構立川キャンパス 東京都立川市緑町3256	
千葉看護学部		100	—	400		1.10	1.12				
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.10	1.12		平成30年度	船橋キャンパス 千葉県船橋市海神町西1-1042-2	
和歌山看護学部		90	—	360		1.16	1.22				
看護学科	4	90	—	360	学士(看護学)	1.16	1.22		平成30年度	雄達キャンパス 和歌山県和歌山市東坂ノ上1-3番地 日赤和歌山医療センター キャンパス 和歌山県和歌山市小松原通4-20	
大学院											
医療保健学研究科 医療保健学専攻 (修士課程)	2	25	—	50	修士(看護学) (感染制御学) (医療栄養学) (医療保健情報学) (助産学) (周手術医療安全学)	1.16	1.16		平成19年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17	
医療保健学専攻 (博士課程)	3	4	—	12	博士(感染制御学) (周手術医療安全学)	1.63	2.50		平成21年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17	
看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	30	—	60	修士(看護学) (助産学)	0.99	1.03		平成25年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	

看護学研究科 看護学専攻 (博士課程)	3	2	—	6	博士 (成育看護学) (地域環境保健学)	1.46	1.17		平成26年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1
和歌山看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士 (看護学)	1.00	1.00		令和2年度	日赤和歌山医療センター キャンパス 和歌山県和歌山市小松原通 4-20
千葉看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士 (看護学)	1.13	1.13		令和3年度	船橋キャンパス 千葉県船橋市海神町西1- 1042-2

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	担当授業科目名
兼任	講師	岩倉篤 (53) <平成31年4月> 博士(医学)	疾病治療Ⅰ
兼任	講師	大谷篤史 (48) <平成31年4月> 博士(医学)	疾病治療Ⅲ
兼任	講師	三浦誠 (58) <平成31年4月> 博士(医学)	疾病治療Ⅲ
兼任	講師	加納隆 (65) <平成32年4月> 博士(学術)	医用機器概論
兼任	講師	宮下和久 (63) <平成31年4月> 博士(医学)	公衆衛生学
兼任	講師	和田安彦 (56) <平成31年4月> 博士(医学)	保健医療福祉行政論
兼任	講師	奥田祐亮 (31) <平成31年4月> 学士(医学)	保健医療福祉行政論
兼任	講師	堀江邦友 (31) <平成31年4月> 学士(医学)	保健医療福祉行政論
兼任	講師	池田和功 (51) <平成31年4月> 博士(医学)	保健医療福祉行政論
兼任	講師	本庄麻美子 (41) <平成30年4月> 修士(経営学)	キャリア教育Ⅰ
兼任	講師	竹田明弘 (49) <平成32年4月> 修士(経営学)	医療マネジメント論
兼任	講師	丸山範高 (47) <平成30年4月> 修士(教育学)	クリティカルシンキングⅠ
兼任	講師	安達和美 (65) <平成32年4月> 修士(学術)	国際看護学 災害看護援助論Ⅰ 災害看護援助論Ⅱ
兼任	講師	宮本純子 (42) <平成33年4月> 修士(保健学)	災害看護援助論Ⅰ 災害看護援助論Ⅱ
兼任	講師	谷尻治 (59) <平成31年4月> 学士(教育学)	教職への道
兼任	講師	岡正人 (63) <平成31年4月> 修士(教育学)	道徳教育の理論と方法 特別活動の指導法 教育方法論 生徒指導論
兼任	講師	越野章史 (50) <平成31年4月> 修士(教育学)	教育原理
兼任	講師	中山幸夫 (62) <平成31年4月> 修士(文学)	教育原理
兼任	講師	市川洋子 (60) <平成31年4月> 博士(教育学)	教育課程論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	担当授業科目名
兼任	講師	岩倉篤 (55) <平成31年4月> 博士(医学)	疾病治療Ⅰ
兼任	講師	大谷篤史 (50) <平成31年4月> 博士(医学)	疾病治療Ⅲ
兼任	講師	三浦誠 (60) <平成31年4月> 博士(医学)	疾病治療Ⅲ
兼任	講師	西手芳明 (59) <平成32年4月> 博士(保健科学)	医用機器概論
兼任	講師	宮下和久 (64) <平成31年4月> 博士(医学)	公衆衛生学
兼任	講師	和田安彦 (58) <平成31年4月> 博士(医学)	保健医療福祉行政論
兼任	講師	池田和功 (51) <平成31年4月> 博士(医学)	保健医療福祉行政論
兼任	講師	本庄麻美子 (42) <平成30年4月> 修士(経営学)	キャリア教育Ⅰ
兼任	講師	竹田明弘 (51) <平成32年4月> 修士(経営学)	医療マネジメント論
兼任	講師	丸山範高 (48) <平成30年4月> 修士(教育学)	クリティカルシンキングⅠ
兼任	講師	安達和美 (66) <平成32年4月> 修士(学術)	国際看護学 災害看護援助論Ⅰ 災害看護援助論Ⅱ
兼任	講師	宮本純子 (43) <平成33年4月> 修士(保健学)	災害看護援助論Ⅰ 災害看護援助論Ⅱ
兼任	講師	谷尻治 (60) <平成31年4月> 学士(教育学)	教職への道 生徒指導論
兼任	講師	越野章史 (51) <平成31年4月> 修士(教育学)	教育原理
兼任	講師	中山幸夫 (63) <平成31年4月> 修士(文学)	教育原理
兼任	講師	市川洋子 (61) <平成31年4月> 博士(教育学)	教育課程論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	担当授業科目名
兼任	講師	三浦誠 (61) <平成31年4月> 博士(医学)	疾病治療Ⅲ
兼任	講師	西手芳明 (60) <平成32年4月> 博士(保健科学)	医用機器概論
兼任	講師	池田和功 (52) <平成31年4月> 博士(医学)	保健医療福祉行政論
兼任	講師	本庄麻美子 (43) <平成30年4月> 修士(経営学)	キャリア教育Ⅰ
兼任	講師	竹田明弘 (52) <平成32年4月> 修士(経営学)	医療マネジメント論
兼任	講師	丸山範高 (49) <平成30年4月> 修士(教育学)	クリティカルシンキングⅠ
兼任	講師	安達和美 (67) <平成32年4月> 修士(学術)	国際看護学 災害看護援助論Ⅰ 災害看護援助論Ⅱ
兼任	講師	宮本純子 (45) <平成33年4月> 修士(保健学)	災害看護援助論Ⅰ 災害看護援助論Ⅱ
兼任	講師	谷尻治 (61) <平成31年4月> 学士(教育学)	教職論 生徒指導論
兼任	講師	越野章史 (52) <平成31年4月> 修士(教育学)	教育原理
兼任	講師	中山幸夫 (63) <平成31年4月> 修士(文学)	教育原理
兼任	講師	市川洋子 (61) <平成31年4月> 博士(教育学)	教育課程論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	担当授業科目名
兼任	講師	三浦誠 (62) <平成31年4月> 博士(医学)	疾病治療Ⅲ
兼任	講師	西手芳明 (61) <令和2年4月> 博士(保健科学)	医用機器概論
兼任	講師	池田和功 (53) <平成31年4月> 博士(医学)	保健医療福祉行政論
兼任	講師	本庄麻美子 (44) <平成30年4月> 修士(経営学)	キャリア教育Ⅰ
兼任	講師	竹田明弘 (53) <令和2年4月> 修士(経営学)	医療マネジメント論
兼任	講師	丸山範高 (50) <平成30年4月> 修士(教育学)	クリティカルシンキングⅠ
兼任	講師	安達和美 (68) <令和2年4月> 修士(学術)	国際看護学 災害看護援助論Ⅰ 災害看護援助論Ⅱ
兼任	講師	宮本純子 (46) <令和3年4月> 修士(保健学)	災害看護援助論Ⅰ 災害看護援助論Ⅱ
兼任	講師	谷尻治 (62) <平成31年4月> 学士(教育学)	教職論
兼任	講師	越野章史 (53) <平成31年4月> 修士(教育学)	教育原理
兼任	講師	中山幸夫 (64) <平成31年4月> 修士(文学)	教育原理
兼任	講師	市川洋子 (62) <平成31年4月> 博士(教育学)	教育課程論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	担当授業科目名
兼任	講師	三浦誠 (63) <平成31年4月> 博士(医学)	疾病治療Ⅲ
兼任	講師	池田和功 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	保健医療福祉行政論
兼任	講師	本庄麻美子 (45) <平成30年4月> 修士(経営学)	キャリア教育Ⅰ
兼任	講師	竹田明弘 (54) <令和2年4月> 修士(経営学)	医療マネジメント論
兼任	講師	丸山範高 (51) <平成30年4月> 修士(教育学)	クリティカルシンキングⅠ
兼任	講師	安達和美 (69) <令和2年4月> 修士(学術)	国際看護学 災害看護援助論Ⅰ 災害看護援助論Ⅱ
兼任	講師	宮本純子 (47) <令和3年4月> 修士(保健学)	災害看護援助論Ⅰ 災害看護援助論Ⅱ
兼任	講師	谷尻治 (63) <平成31年4月> 学士(教育学)	教職論
兼任	講師	越野章史 (54) <平成31年4月> 修士(教育学)	教育原理
兼任	講師	市川洋子 (63) <平成31年4月> 博士(教育学)	教育課程論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	新井 肇 (68) <令和2年10月> 修士(学校教育学) 生徒指導論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	新井 肇 (68) <令和2年10月> 修士(学校教育学) 生徒指導論
兼任	講師	中井 國雄 (69) <令和2年10月> 医学博士 病態生理学
兼任	講師	豊福 守 (53) <令和3年4月> 医学博士 体の仕組みと働きⅠ 疾病治療論Ⅰ
兼任	講師	田中 慶尚 (38) <令和3年4月> 医学博士 体の仕組みと働きⅡ 疾病治療論Ⅱ
兼任	講師	川村 勇樹 (27) <令和3年4月> 博士(工学) 医用機器開発論

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- 専任教員の就任に関する変更
 - ・講師：温井由美 体調不良による就任辞退。一人で担当している科目は無く、支障がないと思われる。
 - ・講師：近藤純子 就任年月をH31年4月から、H30年4月に前倒し変更。（錯誤を修正）
 - ・助教：西井崇之 教育の質を高めるために教員組織の増員として新規就任予定者登録。
- 担当授業科目に関する変更
 - ・特別活動の指導法：養護教諭課程申請時の文部科学省よりの指導により、担当教員を変更。
 - ・教育課程論：養護教諭課程申請時の文部科学省よりの指導により、担当教員を変更。
 - ・病態生理学：複数で授業を担当する予定であったが、1名体調不良による就任辞退を受けた。そのため単独での開講とし担当教員を変更した。
 - ・医用機器概論：申請時の教員より一身上の都合により就任辞退を受け、担当教員を変更した。
 - ・保健医療福祉行政論：養護教諭課程申請時の文部科学省よりの指導により、担当教員を変更。
 - ・道徳教育の理論と方法：養護教諭課程申請時の文部科学省よりの指導により、担当教員を変更。
 - ・教育方法論：養護教諭課程申請時の文部科学省よりの指導により、担当教員を変更。
 - ・生徒指導論：養護教諭課程申請時の文部科学省よりの指導により、担当教員を変更。

【令和元年度】

- 専任教員の就任に関する変更
 - ・准教授：北得美佐子 教育の質を高めるために教員組織の増員として新規就任登録。
 - ・講師：福井早苗 教育の質を高めるために教員組織の増員として新規就任登録。
 - ・講師：宇田賀津 教育の質を高めるために教員組織の増員として新規就任登録。
 - ・助教：関口公平 教育の質を高めるために教員組織の増員として新規就任登録。
 - ・助教：大江勲子 教育の質を高めるために教員組織の増員として新規就任登録。
- 担当授業科目に関する変更
 - 教育内容の充実を図るために、以下の専任教員の科目を追加。
 - ・社会学・基礎看護援助論Ⅰ（看護技術の基本）・基礎看護援助論Ⅱ（生命兆候と体の観察）・基礎看護援助論Ⅲ（快適な環境と清潔）
 - ・基礎看護援助論Ⅳ（食事と排泄）・臨床看護技術・クリティカル・シンキングⅢ（研究計画演習）
 - ・基礎看護援助実習Ⅰ（看護観察・体験実習）・基礎看護援助実習Ⅱ（看護展開実習）・母性看護援助論Ⅰ（ウイメンズ・ヘルスと看護）
 - ・母性看護援助論Ⅱ（周産期の看護）・母性看護学実習・慢性期・回復期看護援助論・慢性期・回復期看護学実習
 - ・老年看護援助論Ⅰ（高齢者の健康生活を支える看護）・老年看護援助論Ⅱ（健康障害を持つ高齢者の看護）・地域看護活動実習
 - ・在宅看護援助論Ⅱ（在宅における看護過程）・看護統合実習
- 兼任・兼任教員に関する変更
 - ・法改正に伴う養護教諭課程のカリキュラム変更に対応するため、科目名を「教職への道」から「教職論」に変更
 - ・法改正に伴う養護教諭課程のカリキュラム変更に対応するため、科目を追加（特別支援教育の基礎）し、兼任講師を新たに1名採用。
 - ・法改正に伴う養護教諭課程のカリキュラム変更に対応するため、科目「道徳教育の理論と方法」を廃止し代替科目として「道徳教育/総合的な学習の時間の指導法」を新設
 - ・生活健康科学の学習効果を挙げるために兼任教員を3名追加。
 - ・社会学を担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、専任教員4名に変更。
 - ・公衆衛生学を担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を1名採用。
 - ・治療学総論を担当する兼任講師2名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を2名採用。
 - ・疾病治療論Ⅰを担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を1名採用。
 - ・疾病治療論Ⅲを担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を1名採用。

【令和2年度】

- 専任教員の就任に関する変更
 - 新規就任者（西井崇之）の職位変更。（旧：助教 新：講師）
- 兼任・兼任教員に関する変更
 - ・治療学総論を担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を1名採用。
（旧：島津兼任講師 新：杉田兼任講師）
 - ・生物学を担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を1名採用。
（旧：平井兼任講師 新：森田兼任講師）
 - ・化学を担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を1名採用。
（旧：多中兼任講師 新：早川兼任講師）
 - ・体の仕組みと働きⅡを担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を1名採用。
（旧：百名兼任講師 新：打越兼任講師）
 - ・疾病治療論Ⅱを担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を2名採用。
（旧：百名兼任講師 新：田中兼任講師、打越兼任講師）
 - ・特別活動の指導法を担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を1名採用。
（旧：小谷兼任講師 新：布施兼任講師）
 - ・生徒指導論を担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を1名採用。
（旧：谷尻兼任講師 新：新井兼任講師）

【令和3年度】

- 専任教員の就任に関する変更
 - ・教授：松みどり 体調不良による退職により、成人看護学概論、クリティカルシンキングⅢの担当を北得美佐子准教授、急性期看護援助論、急性期看護学実習の担当を北得美佐子准教授、鈴木里美講師、キャリア教育Ⅲを内海教授に変更。
スタディ・スキル、クリティカルシンキングⅢ、在宅看護援助論Ⅱ、医療安全管理学、看護統合実習については一人で担当している科目は無く支障はない。
 - ・講師：鈴木里美 教育の質を高めるために教員組織の増員として新規就任登録。
- 兼任・兼任教員に関する変更
 - ・病態生理学を担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師1名採用。
（旧：赤松兼任講師 新：中井兼任講師）
 - ・体の仕組みと働きⅠを担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を1名採用。
（旧：北田兼任講師 新：豊福兼任講師）
 - ・体の仕組みと働きⅡを担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を1名採用。
（旧：打越兼任講師 新：田中兼任講師）
 - ・疾病治療論Ⅰを担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を1名採用。
（旧：北田兼任講師 新：豊福兼任講師）
 - ・疾病治療論Ⅱを担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を1名採用。
（旧：打越兼任講師 新：田中兼任講師）
 - ・医用機器概論を担当する兼任講師1名が本人都合により辞退となった為、新たに兼任講師を1名採用。
（旧：西手兼任講師 新：川村兼任講師）

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上の 必要教授数
12 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
8	6	9	6	29	5	7	7	12	8	34	5
(5)	(2)	(4)	(2)	(13)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
7	7	12	8	34	5	7	7	12	8	34	5
[-1]	[+1]	[+3]	[+2]	[+5]	[0]	[-1]	[+1]	[+3]	[+2]	[+5]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	5 名	5 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{34}{29} = \boxed{117.24} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{5}{34} = \boxed{14.7} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{5}{5} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	講師	温井 由美	H30.3	必修	クリティカルシンキングⅡ	①	体調不良のため就任辞退（30）						
				必修	基礎看護援助実習Ⅱ	①							
				必修	慢性期・回復期看護援助論	①							
				必修	終末期看護援助論	①							
				必修	慢性期・回復期看護学実習	①							
				必修	地域看護活動実習	①							
				必修	看護統合実習	①							
				選択	健康教育演習	①							
合計（D）					後任補充状況の集計（E）								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
1	人	必修	7	科目	必修	7	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	8	科目	計	8	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	教授	松月 みどり	R3.3	必修	スタディ・スキル	①	R3.3.31付け 体調不良のため辞任（3）						
				必修	クリティカルシンキングⅢ	①							
				必修	成人看護学概論	①							
				必修	急性期看護援助論	①							
				必修	急性期看護学実習	①							
				必修	在宅看護援助論Ⅱ	①							
				必修	医療安全管理学	①							
				必修	キャリア教育Ⅲ	①							
必修	看護統合実習	①											
合計（F）					後任補充状況の集計（G）								
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
1	人	必修	9	科目	必修	9	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	9	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）					後任補充状況の集計（E）+（G）								
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
2	人	必修	16	科目	必修	16	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	17	科目	計	17	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{2}{29} = \boxed{6.89} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計			後任補充状況の集計							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)				
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>辞任教員への対応について</p> <p>① 温井由美講師の就任辞退について一人で担当している科目については無く、科目責任者を含めた複数の専任教員等が対応するため授業に影響は無い。</p> <p>② 松月みどり教授の辞任について、当該教員の担当科目が担当可能な後任の専任教員を採用するとともに、一部科目については他の専任教員が担当するため授業に支障はない。なお、教員交代に係る学生への周知については、セメスター開始時のガイダンス、シラバス等で周知を行った。</p>
--

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (平成30年)	完成年度前に定年規程に定める退職年齢を超える専任教員の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。(和歌山看護学部)	平成30年4月1日施行の大学就業規則附則8の改正により、定年の適用を平成34年3月31日まで猶予することを規定している。	猶予期間経過後に退職することとなる教員の後任補充については、従前どおり業績及び年齢等を考慮した教員採用計画に基づき、計画的な人事(例えば、50歳代准教授のうちから、4年間の業績等について厳格な審査を実施し教授への昇任、学外公募による教授採用)を予定している。
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)	該当なし	該当なし	該当なし
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	該当なし	該当なし	該当なし
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)	該当なし	該当なし	該当なし

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<和歌山看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 東京医療保健大学和歌山看護学部FD・SD委員会規程を制定し、和歌山看護学部FD委員会（委員6名）を設置している。※ 東京医療保健大学和歌山看護学部FD・SD委員会規程（添付資料1）</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 令和2年4月より、9回の委員会を開催。委員6名全員が出席。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容・方法の改善に関する事項 ・研究推進体制の整備に関する事項 ・各種研修会、研究会の実施に関する事項 ・職員研修会等の実施に関する事項 ・その他、FD・SDに関する事項 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 令和2年度は実施し、参加状況は良好であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権研修（組織で取り組むハラスメント予防） ・教育・研究での支援（オンライン実習・授業における教育のあり方を考える） ・新任教員のための研修会 等 <p>b 実施方法 専任教員または外部講師が各内容についてZoomで研修を行い、質疑応答を行った。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） 令和2年度就任教員の8割以上が参加するとともに、事務職員も一部参加しSD活動を行った。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 研修を実施したことで各教職員がFD・SDを意識し、授業の内容や学部運営を工夫することができた。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年5月1日現在、以下のとおり実施予定。 ・令和3年度「学生による授業評価実施」計画 実施時期：各セメスター最終授業日（予定） 実施方法：LMSシステムを使用 <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年5月1日現在、以下のとおり実施予定。 ・教員に対しては、各教員に回覧できるように結果を報告し、授業改善等に努めていただくとともに、学生に対しては、館内にスペースを設け、結果を掲示する。
--

- (注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
本学学則第4条(注)に則り、本学全体の教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、自己点検・評価委員会を設置している。

(注)第4条 本学は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、自ら点検評価を行い、その結果を公表する。
2 本学に自己点検・評価を行うため、東京医療保健大学自己点検・評価委員会を独立した特別委員会として設置する。
3 自己点検・評価に関する事項は別に定める。

② 自己点検・評価報告書
a 公表(予定)時期
・令和2年度点検・評価報告書については、令和3年6月1日 公表予定。
b 公表方法
点検・評価報告書については、本学の大学経営会議及び理事会・評議員会において審議・承認後、ホームページ上に公開している。

③ 認証評価を受ける計画
・令和7年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審する予定。

- (注)・設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和3年度)

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫
b 公表(予定)時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]
c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫
d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。